

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 3月14日

事業所名 Space Kids 沖縄

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2	・目的ごとに一階と二階で分けて活動している。 ・適切に確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	7	2		・一人で複数人が見られるような研修を実施する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	5	・ABA療育では環境づくりのためパーテーションや量の設置、棚の排除等の構造化を行っている。 ・情報を視覚化して工夫している。	・パーテーション等を使って環境づくりをしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	2		・朝だけでなく、支援後も清掃と感染症対策に取り組んでいけるようにする。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		・担当を振り分けて職員全員が行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	7		・今後は自己評価表を基に職員全員での検討会議を実施する。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	4		・今後は評価表を基に業務改善に向けた検討会議を職員全員で行っていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	8		・第三者による評価を行っていないため、今後取り組めるように検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		一日を使った研修日を月に一回設けている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	1	保護者や子どものニーズに合わせて計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	5		・アセスメントツールはあるが今年度は未実施であるため、適宜取り組む。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	2		・「地域支援」「家族支援」に関しては、コロナ禍の状況を考慮し、適切な支援ができるよう検討していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	3		・指導員が児童発達支援計画を確認しやすいように配置の設定等工夫していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			・月始めや週始めにミーティングの機会を作り、情報共有や立案をしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			・児童の様子等、常に情報収集をしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	2	・発達段階に応じて個別での支援に重きを置いて取り組んでいる。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2	・担当が活動を決め、主任と最終確認をしてチームで共有している。 ・朝礼や連絡網を使って行っている。	・今後はより円滑に共有できるよう工夫していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	3	・活動後速やかにミーティングを行っている。 ・その都度行っている。	・日毎によるため、今後は共有、振り返りの場を増やしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1	・ワークシートを作成し、記録を作っている。	・個別支援計画書に基づいた記録の記入を実施していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	2		・今後は保護者、職員を含めた評価を行っていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	2	・指導員も含めてサービス担当者会議に参加できるようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	5		・今後はより関係機関との連携が図れるように工夫していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	7		・現在該当児童の利用がないため、今後検討し体制を整えていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		8		・現在該当児童の利用がないため、今後検討し体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	4	・相談支援事業所に会議の場を開いていただいている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	4		・保護者を介して支援内容の確認を行っている状況のため、事業所主体で相互理解ができるように取り組んでいく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	8		・今後は専門機関の研修教材を活用していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		9		・コロナ禍の状況を考慮し、Zoom等のオンラインサービスを活用した開催を検討する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		8		・コロナ禍の状況を考慮して開催を検討する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	2	・LINEや電話等を使用して共有している。 ABAでは保護者との連携のため、送迎をお願いしてもらい引継ぎの場で共有の時間を15分程設けている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		9		・よりニーズに合わせたペアレントトレーニングや支援の方法を検討する。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1	・契約時、変更があった場合はその都度説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		・ABA療育では計画書作成、更新に当たって保護者の方に今後の支援内容やこれまでの振り返りを確認する場を設けている。	・ABA療育以外でも保護者との確認の場を作っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	3	・電話等を活用し、状況によって直接自宅に赴き対応している。 ・LINEを活用して相談に応じている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		9		・コロナ禍の状況を考慮して開催を検討する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	2	・相談があった際に速やかに対応して、場合によって全体の話し合いの場を設けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		・SNS等を利用して、細やかに発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		・個人情報に記載されている書類は鍵付きの棚に保管している。 ・保護者に確認を取り、注意している。	・事務室を整理整頓し、場所を確保する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		・必要に応じて個別で対応する機会を作っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	4	・支援内容の報告を学校、地域、福祉事業所に呼び掛けて開催した。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	6	・事前に話し合い等を持ち、周知している。	・月に一回訓練をすることで実際に起きた際に慌てない体制を作る。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	5	・実際の災害に備えて訓練を行っている。 道具等の体験や	・今後年二回で定期的に児童と共に取り組む。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	2	・保護者からの情報で事前に確認し、全員に周知している。	・適宜確認して職員に共有していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	8		・保護者からの情報のみであったため、今後医療機関とも連携を図る。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	8		・月に一回全体共有の場を設ける。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	3	・職員が虐待防止研修に参加し、その後伝達研修を実施している。	・外部で受けた職員は社内で共有していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	6	・身体拘束を原則行わないことを職員に伝えている。	

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 14日

事業所名 Space Kids 沖縄

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	2	1	・活動によってパーティション等の仕切りを使って空間を分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	7	2			・一人で3~4人みれるようスキルアップをする。 ・人数は適切だが、定着率が低い慣れるまで戦力が少ない。そのため、研修や業務のマニュアル化等で指導員のスキルアップを図る。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	3	・洗面所での手洗いにイスを置いている。	・玄関には段差があるため置き型のスロープを作る。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	3		・担当を振り分けて職員全員が行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	4	2		・保護者が評価したり、気軽に意見できる場がない。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	3		・HPに掲載する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	7		・第三者による評価を行っていないため、今後取り組めるように検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2		・外部への研修の参加や事業所内での研修を意欲的に行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	2	1	・子どもの特性を見て、現場の状況を踏まえて客観的に分析し、計画書を作成している。	・放課後等デイサービス、児童発達支援とそれぞれに分けたツールを作成する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	5	2		・アセスメントシートはあるが、定期的の実施できていないため今後取り組んでいく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1			・今後指導員全員で内容を考える時間を設けていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1		・毎月の活動計画を立てて適宜実施している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	4	3		・今後は課題がより細かく設定された個別支援計画書を使用する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	2		・子どもの状況、特性に合わせて計画書を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2	1	・支援前に職員間で連携を図っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4	3		・振り返りの機会を多く作っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2	1	・LINEやカイポケを使用して、月々記録をしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1	1	・モニタリングでは学校、保護者、相談員と連携をとっている。	・今後は指導員や保護者の意見がより反映されるようにする。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	3	1	・ガイドラインに沿って活動を考えている。	・指導員がガイドラインをより把握していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	2	・指導員も含めてサービス担当者会議に参加できるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	2		・保護者や学校との連絡を適宜行うようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5	3		・医療的ケアが必要な児童の利用が現在ない。 ・てんかんが発生した場合の対処方法も共有している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	4			・相談支援事業所に会議の場を開いていただいている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4	4	・保護者には解約後の情報提供等の協力について説明をしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	5		・今後は専門機関の研修教材を活用していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	8		・コロナ禍の状況を考慮して開催を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		2	7		・コロナ禍の状況を考慮して開催を検討する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	4		・毎日のLINEでの連絡、必要に応じて電話連絡を行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5	3	・必要な保護者に対して個別の相談やカウンセリングの機会を作っている。	・よりニーズに合わせたペアレントトレーニングや支援の方法を検討する。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1		・契約時、変更があった場合はその都度説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	3		・相談があった際は速やかに対応している。必要に応じて職員全員で話し合いの場を開いている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	6		・コロナ禍の状況を考慮して保護者会の開催を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		1	・全体で速やかに話し合いの場を持ち、今後の体勢を考える。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	2		・SNS等を活用して発信している。 ・活動新聞という形で一月毎に内容を保護者宛に発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	5	3		・個人情報が記載されている書類は鍵付きの棚に保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		・個室など必要に応じた環境設定を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	2	・支援内容の報告を学校、地域、福祉事業所に呼び掛けて開催した。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、 感染症対応マニュアルを策定し、職員や保 護者に周知している	3	3	3		・職員全員が周知できるように、目に見える場 所への設置等行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出その他必要な訓練を行っている	4	1	4		・今後年二回で定期的に児童と共に取り組む。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確 保する等、適切な対応をしている	7	1	1	・職員が虐待防止研修に参加し、その後 伝達研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行 うかについて、組織的に決定し、子どもや保 護者に事前に十分に説明し了解を得た上 で、放課後等デイサービス計画に記載して いる	3	4	2	・身体拘束を原則行わないことを職員に伝 えている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医 師の指示書に基づく対応がされている	2	3	4		・保護者からの情報のみであったため、今後医 療機関とも連携を図る。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	1	3	5		・週に一回程度ヒヤリハットの事例を共有する 時間を設ける予定。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 Space Kids 沖繩

保護者等数(児童数) 7(7) 回収数 6 割合 約86%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	5			1	・のびのびと活動しています。	・今後ものびのびと活動できるようスペースに配慮して支援を行います。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	6					・法定基準を満たし、資格を持った職員を配置しております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6					・今後も児童の特性に応じた環境づくり、構造化ができるよう取り組んでいきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6				・とてもきれいで心地よく過ごせる。 ・きれいな空間だと思います。 ・とてもそう思います。	・今後も設備の維持やより良い環境、空間づくりができるよう工夫していきます。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	6					・児童の発達段階に応じてABA等の適した支援を計画しております。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			1		・児童発達支援計画には、本人の支援を含めご家庭や地域との連携を踏まえた支援内容が計画されております。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6				・いろいろ取り組みをしていると思います。	・今後も計画書に沿って、意欲的に取り組める支援内容を考えていきます。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	6					・今後も日々の経過記録を基に、達成状況に応じた支援を行います。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	1		4	・とてもそう思います。 ・コロナ禍ということもあるので理解はしています。	・コロナ禍の状況も考慮しつつ、地域との交流の場が作れるように検討します。
適切な 支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	5	1				・今後、契約の際も含めて丁寧にお伝えできるように致します。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	6					・児童発達支援計画の作成、更新の際には支援内容について、保護者との相違がないように説明の上、確認をしております。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われている	6				・家庭での支援の方法やアドバイス等して下さるので助かっています。	・ABA療育では家庭での実践ができるよう細かい共有を図っております。今後は別の方法でも家族支援ができるよう取り組んでいきます。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	6					・ABA療育ではフィードバックを含め、達成状況や今後の見通しについて共有する時間を設けております。他の療育でも、より良く共通理解ができるよう工夫して参ります。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	6					・ABA療育では保護者の方々に送迎をお願いしているため、日々ご相談させていただいております。今後は面談等の場が設けられるよう検討します。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている			2	4	・保護者会とかの集まりがないためわかりません。	・コロナ禍の状況で開催ができておりません。状況を考慮し開催方法を検討致します。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	6				・相談した時はいろいろなアイデアや丁寧な説明に助けていただいております。	・保護者からの申し入れやご相談に対して迅速に対応できるよう、フローチャート等を作成して取り組んでおります。今後もより良く対応ができるよう工夫して参ります。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	6					・今後も保護者の方々と連携がより良く取れるよう工夫していきます。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	4	1		1	・ホームページ等に乗せてくれているので、どのような活動をしているのかよくわかるので良いと思います。	・今後もホームページを中心に活動の様子や情報の発信ができるよう取り組んでいきます。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	5			1		・個人情報に記載されている書類に関しては鍵付きの棚に常時保管しております。
非常時等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	5	1				・各マニュアルは事業所内に適宜確認できる場所に配置しております。今後保護者の方々にも周知できるようにします。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	6					・今後半年に一回の年二回、児童と共に避難訓練を実施致します。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	5	1			・いつもニコニコしながら通っている。 ・保育園より楽しいみたいです。 ・子どももですが親も楽しんでいきます。	・今後も児童が楽しめる内容で支援が提供できるよう取り組んでいきます。
	23	事業所の支援に満足している	6				・とても満足しています。 ・ABA療育のおかげでとても成長できています。	・ABA療育をはじめ、児童の成長の手助けになれるような支援を今後も目指して取り組みます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年3月15日

事業所名 Space Kids 沖繩

保護者等数(児童数)18(19) 回収数16 割合 約89%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16				・今後も活動ごとにスペースに配慮して支援を行ってまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	13	2		・専門職のスタッフがいるようなので、専門としてのアドバイスがほしいと思う。 ・分からない。 ・コロナでお休み中なのでわかりません。	・法定基準を満たし、資格を持った職員を配置しております。 ・今後、専門性を踏まえた申し送りやアドバイスができるよう努めて参ります。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	13	1		・新しいきれいな事業所です。	・今後も設備の維持やより良い環境づくりができるよう工夫してまいります。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	15	1		・計画されているも、実際には必要とすることが出来なくなっている。	・今後はより個別支援計画に沿った療育ができるよう努めて参ります。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	12	4		・いろいろとやってくれている。ABA療育等をもっと充実してほしい。	・ABA療育が放課後等デイサービスでも円滑に実施できるよう体制等を工夫してまいります。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	10	3	・不明 ・コロナの影響もあり、実施できていないと思います。 ・コロナ禍なので、行っていないと思う。 ・コロナでお休み中なのでわかりません。	・コロナ禍の状況も考慮しつつ、地域との交流の場が作れるように検討します。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15				・今後も継続して、丁寧にお伝えできるように致します。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	14	1	1	・LINEのみ、一方的だと思います。	・電話での申し送り希望を改めてお伝えするとともに、今後の共有方法を工夫してまいります。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	2	1	・面談はやったことないと思う。送迎時の申し送りではしっかり対応してくれている。	・今後は定期的な面談の場が設けられるように検討します。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	4	8	・仕事が忙しく私が参加できていません。 ・コロナ中なので無くて良い。	・コロナ禍の状況で開催ができておりません。状況を考慮し開催方法を検討致します。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	1		・特に苦情はないが、ちゃんと対応してくれると思う。 ・以前ケガした時も親身になって対応してくれた。	・保護者からの申し入れやご相談に対して迅速に対応できるよう、フローチャート等を作成して取り組んでおります。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15		1	・LINEでやりとりできるのでできるので難しい。 ・LINEで一方的だと思います。	・今後より良く日々の情報共有ができるよう、伝達方法を工夫して参ります。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	15		1		・一月毎に活動の様子を活動新聞として保護者にお配りしております。また、毎日の活動の様子はInstagramにて発信しております。自己評価表につきましては、今年度はホームページにて掲載致します。
14 個人情報に十分注意しているか	16				・今後も個人情報の扱いには細心の注意を払ってまいります。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	4		・てんかんの時の対応シミュレーションなどつくってくれていて、安心しています。	・各マニュアルは事業所内に適宜確認できる場所に配置しております。今後保護者の方々にも周知できるようにします。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8	7		・分からない。	・今後半年に一回の年二回、児童と共に避難訓練を実施致します。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	13	2	1	・好きな活動を取り入れてくれたり、丁寧に関わってくれていて、楽しみにしている。 ・すぐイライラして帰宅しています。 ・とても楽しみにしている。	・今後も児童が自発的に療育に取り組めるよう工夫して参ります。また、児童のその日の心理状況や体調等を考慮して気持ちに寄り添った支援ができるよう検討します。
	18 事業所の支援に満足しているか	15	1		・平日の学校終わりでABAや心理療育がどれだけ実施されているのかわかりにくい。 ・こんなんでもいいのか悩んでいます。(必要だと思いついた入所させたが、本人がイライラしている)	・ABAや心理療育を平日でも円滑に実施できるよう検討します。また、共有方法につきましても工夫致します。そして、本人の気持ちに寄り添った支援が行えるよう取り組んでまいります。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通して、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせ実施されることが想定されている。